



ユーザビリティ評価

新学習指導要領に基づく

A² [支援のための発達アセスメント]

A² 「個別の教育支援計画」

大阪府立住之江支援学校 岩山 カイナ

京都教育大学 佐藤 克敏

A² 『個別の教育支援計画』 ツール

① 【支援のための発達アセスメント】

- ・ 学習指導要領の段階目安を判定、自立活動の区分

② 【合理的配慮アイディアリスト】

- ・ ICFの視点の重視（社会参加への配慮）

2つの
メイン機能



日米の大学教授の
協力の基に作成

③ 幼稚園・保育所／小学校（特別支援学校 小学部）／ 中学・高校（特別支援学校 中学部・高等部） 多校種対応

④ 指導・支援の評価を経年で確認（3～18歳まで）

⑤ RTIモデルの活用と他機関連携

⑥ 情動面（行動/感情/情緒）の支援ニーズ考慮

愛着障害など

有用性を高める

使用者のユーザビリティを検討 アセスメント及びツールとしての有用性/改善点を明らかにする

ユーザビリティ評価

1) 調査対象

小中学校支援学級担任：

発達諸検査 実施経験あり（2名）
経験なし（6名）

特別支援学校担任：

発達諸検査 実施経験あり（4名）
経験なし（4名）

【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

Assessment
A²
Accommodation 『個別的教育支援計画』ツール Ver. 1.2
新任からできる実態把握 ぜひご利用ください

支援計画の作成で、目標設定や評価に悩んでいませんか？「A² 個別的教育支援計画」は現場の先生方をお助けする便利ツールです。実態把握（新学習指導要領に対応した発達アセスメント）から合理的配慮を導き出すと共に、子どもの経年変化を記録することができます。

① 支援のための「発達アセスメントツール」としての活用

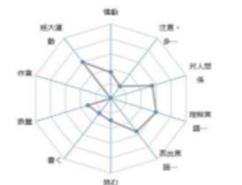
1	学習意欲	学習態度	読解力	算数力	言語力	社会性	生活技能
2	読解力	算数力	言語力	社会性	生活技能	読解力	算数力
3	言語力	社会性	生活技能	読解力	算数力	言語力	社会性
4	生活技能	読解力	算数力	言語力	社会性	生活技能	読解力
5	読解力	算数力	言語力	社会性	生活技能	読解力	算数力
6	言語力	社会性	生活技能	読解力	算数力	言語力	社会性
7	生活技能	読解力	算数力	言語力	社会性	生活技能	読解力
8	読解力	算数力	言語力	社会性	生活技能	読解力	算数力
9	言語力	社会性	生活技能	読解力	算数力	言語力	社会性
10	生活技能	読解力	算数力	言語力	社会性	生活技能	読解力

発達段階を選び、クリックするだけ！

- 小学部1段階
- 小学部2段階
- 中学部1段階
- 中学部2段階

新学習指導要領の段階分けにも活用可能

「得意」と「課題」をその場で視覚化！



② 「合理的配慮のアイデアリスト」を参考資料として収録

場面(場面・目的)	注意・多動	対人関係	理解困難(書く)	聴覚困難(聴く)
授業(授業)				
休憩(休憩)				
給食(給食)				
放課後(放課後)				

実態把握リーダーや子どもの課題に応じて、適切な配慮をらくらく検索！

※ 様式は、幼保・小・中高に対応しています。

- ③ 「校内/他機関連携」を強化
- ④ 「実態～目標～支援～評価」の関連性を深化
- ⑤ 3～18歳までの「経年変化」を把握
- ⑥ 「愛着・情動面の支援ニーズ」に対応



A² [支援のための発達アセスメント] アンケート

A² [支援のための発達アセスメント] ～5歳程度の発達段階用

【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部1段階
- 小学部2段階
- 小学部3段階

※ これらの結果分けは、発達的な観点から行われる、あくまでも目安です。

【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部2段階
- 小学部3段階
- 中学部1段階
- 中学部2段階

※ これらの結果分けは、発達的な観点から行われる、あくまでも目安です。

A² [支援のための発達アセスメント]

【特別支援学校 学習指導要領】

- 中学部1段階
- 中学部2段階
- 高校部1段階
- 高校部2段階

※ これらの結果分けは、発達的な観点から行われる、あくまでも目安です。

A² [支援のための発達アセスメント]/A² 個別の教育支援計画』ツール有効性・利便性等に関するアンケート調査

本調査の目的：A² 個別の教育支援計画』ツールの有用性について、実際の使用感から検証し、改善につなげる

回答者の皆様へ：

- ・アンケート用紙は2ページ、質問は計24問 (1)13問/(2)11問)あります。
- ・このアンケートへの回答は任意となりますので、無理に調査に協力頂く必要はありません。
- ・回答は研究目的のみに使用させていただきます。個人が特定されることはありません。
- ・本アンケート用紙は、厳重に保管いたします。
- ・体調が良くないなど、理由があれば途中で回答をやめていただいても結構です。

回答方法

- 5 よくあてはまる
- 4 少しあてはまる
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりあてはまらない
- 1 全くあてはまらない

A² [支援のための発達アセスメント] 以下A² [アセスメント]を使って感じたことをお聞きします。それぞれの質問項目にあてはまる回答を一つ選んでお答えください。

質問

回答欄

質問	回答欄
1. A ² [支援のための発達アセスメント] 以下、A ² [アセスメント]について伺います	
1 A ² [アセスメント]は、子どもの実態把握に役に立つと思う	
2 A ² [アセスメント]のチェックは簡単に行けると感じる	
3 A ² [アセスメント]の実態把握 (レーダーチャートの凸凹)結果に満足している	
4 A ² [アセスメント]を用いた実態把握は、指導場面での体感とマッチしている	
5 A ² [アセスメント]を用いて子どもの理解が深まったと感じる	
6 A ² [アセスメント]は、子どもの実態に応じた支援計画/指導計画等の作成に役に立つ	
7 A ² [アセスメント]のチェックは手間がかからないと感じる	
8 A ² [アセスメント]の実態把握は子どもの支援に役に立つと思う	
9 A ² [アセスメント]レーダーチャートは子どもの実態をよく表している	
10 A ² [アセスメント]を用いて、子どもの実態について指導者間での共通理解が広がった	
11 A ² [アセスメント]のチェックには、誰かの手助けが必要である	
12 A ² [アセスメント]を用いることは不安だ	
13 A ² [アセスメント]に基づく支援計画/指導計画は授業内容の選定に役立つと感じる	
14 今後もA ² [支援のための発達アセスメント]を使用したい	

※ A² [支援のための発達アセスメント]のみご使用いただいた方は、こちらのページで終了となります。裏面/右側はご回答いただかなくても大丈夫です)

発達の観点と学習指導要領に基づく
10程度の領域の質問項目に回答

A² 『個別の教育支援計画』 ツール アンケート

- [様式 1] フェイスシート
- [様式 2] 実態・目標・支援
- [様式 3] 経年変化

様式

個別の教育支援計画

担当者 _____

名前	診断名	診断名・疾病等の特徴	医療・福祉・相談機関	療育・相談・支援内容
生年月日	年 月 日	診断機関		<input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了
学校園名				<input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了
ふりがな				<input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了
保護者		健康面 (アレルギー・感染症等)		<input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了
連絡先	〒 _____			<input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了
住所				<input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了
家族構成		療育手帳	年 月 日 更新	<input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了
		身体手帳		<input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了
		精神手帳		<input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了
生育歴 (特記事項)				<input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了

療育・相談等の状況

強み・長所を確認
⇒支援・指導に活かす

実態・目標・支援方法 [様式 2]

担当 _____

本人/保護者の願い _____

地域生活/社会参加の希望/課題 _____

日付 _____

精神書の記録	実態把握	長期目標	合理的配慮などの支援方法
支援のための発達アセスメント	【生活動作内】 身体自立 運動・作業		
【自己】 情緒/行動 対人関係			
【ことば】 読解/算数・ 書出/言語			
【学習】 読解・算数 数独			
その他 特記事項			

アセスメントシートや検閲度からわかる
得意・課題 (チャートの凸と凹)

得意凸
課題凹
※必ず
必ず

実施に活かしたい
良さ・好きなこと

次年度に引き継ぎたい
情報・特別な予定

評価のため
支援のための発達アセスメント

評価と経年変化 [様式 3]

	中1	中2	中3	高1	高2	高3	実習・面接等の配慮
評価 できる 項目							
【自己調整と 社会性】 興味・行動 対人関係							実習の記録 (場所・期間)
インク	身体自立						
	その他 特記事項						
高等学校/高等部へ 引き継ぎ							卒業後の引き継ぎ

A² 支援のための発達アセスメントのみご使用いただいた方はここで終わります。
(2)をご回答いただく必要はありません。

- 回答方法
- 5 よくあてはまる
 - 4 少しあてはまる
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりあてはまらない
 - 1 全くあてはまらない

A² 個別の教育支援計画】ツールを使って感じたことをお聞きします。
それぞれの質問項目にあてはまる回答を一つ選んでお答えください。

2. A² 個別の教育支援計画』について伺います

1	A ² 個別の教育支援計画』は、子どもの実態に応じた個別の教育支援計画が作成できる	
2	A ² 個別の教育支援計画』の作成には、誰かの手助けが必要である	
3	A ² で作成した個別の教育支援計画に満足している	
4	A ² 個別の教育支援計画』ツールを用いて子どもの理解が深まったと感じる	
5	A ² 個別の教育支援計画』ツールで作成した個別の教育支援計画は子どもの教育に有益だと感じる	
6	A ² 個別の教育支援計画』の作成は手間がかからないと感じる	
7	A ² で作成した個別の教育支援計画は子どもの支援に役立つと思う	
8	A ² 個別の教育支援計画』ツールを用いて、子どもの実態について指導者間での共通理解が広がった	
9	A ² 個別の教育支援計画』ツールで作成される個別の教育支援計画は授業内容の選定に役立つ	
10	A ² 個別の教育支援計画』の作成は容易であると感じる	
11	A ² 個別の教育支援計画』ツールを用いることは不安だ	
12	今後もA ² 個別の教育支援計画』ツールを用いて個別の教育支援計画を作成したい	

アンケートは以上となります。ご協力ありがとうございました。

その他、ご意見やご感想をお聞かせください。

結果・考察

1) A²[支援のための発達アセスメント]

簡易性を除く全領域で
良好な評価

簡易性：自由記述より

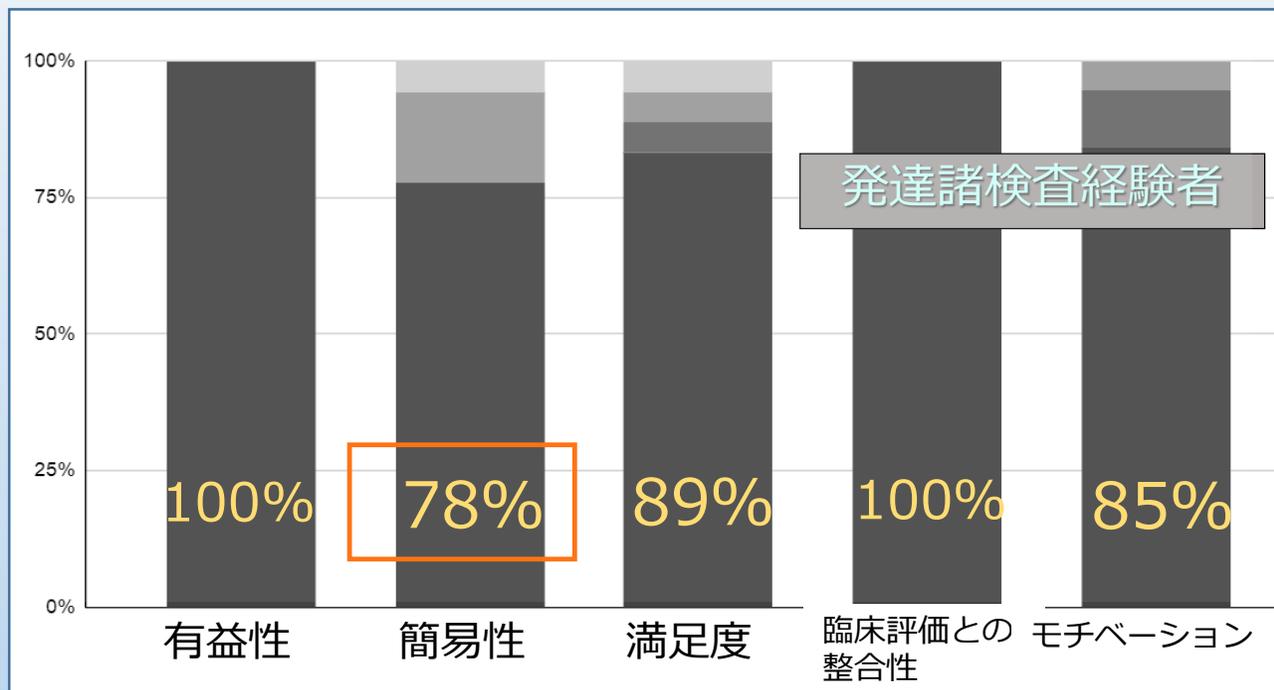
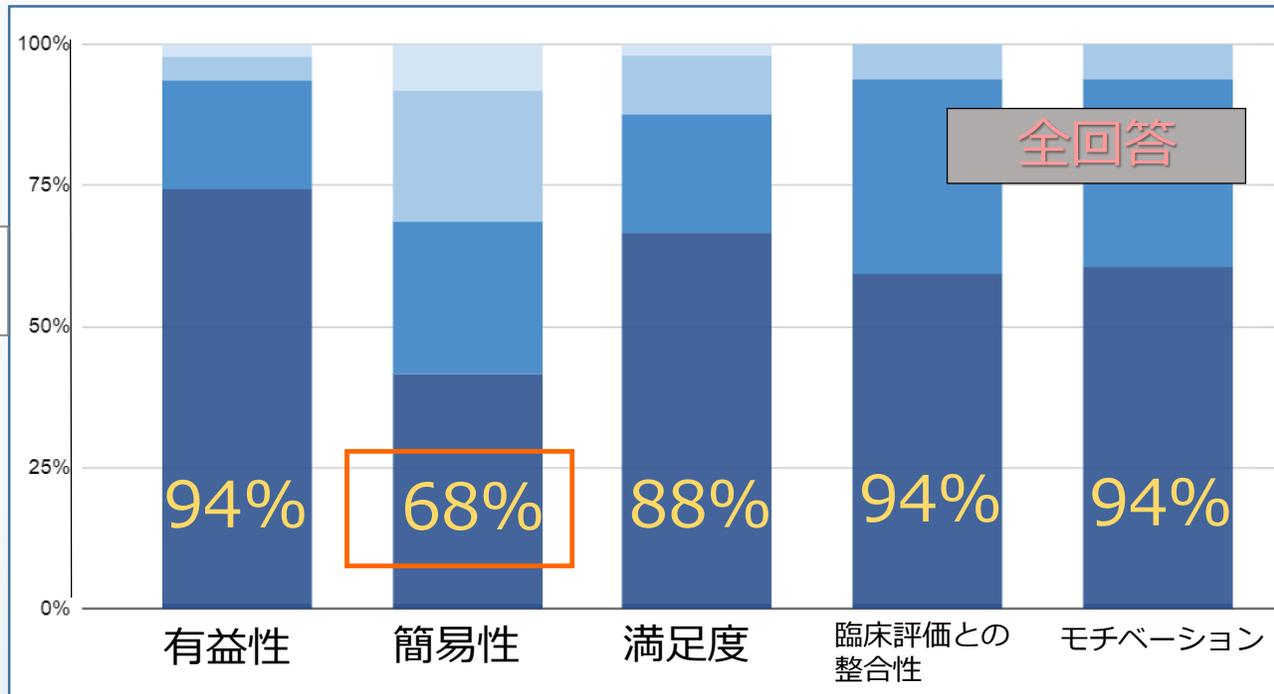
(発達諸検査)

未経験者：“今まで見ていなかった
新たな視点が必要であった”

経験者：“他の検査より簡便”

発達諸検査の
実施経験有無で評価に差

「よくあてはまる」「少しあてはまる」合計



2) A²『個別の教育支援計画』ツール

簡易性を除く全領域で
良好な評価

簡易性：自由記述より

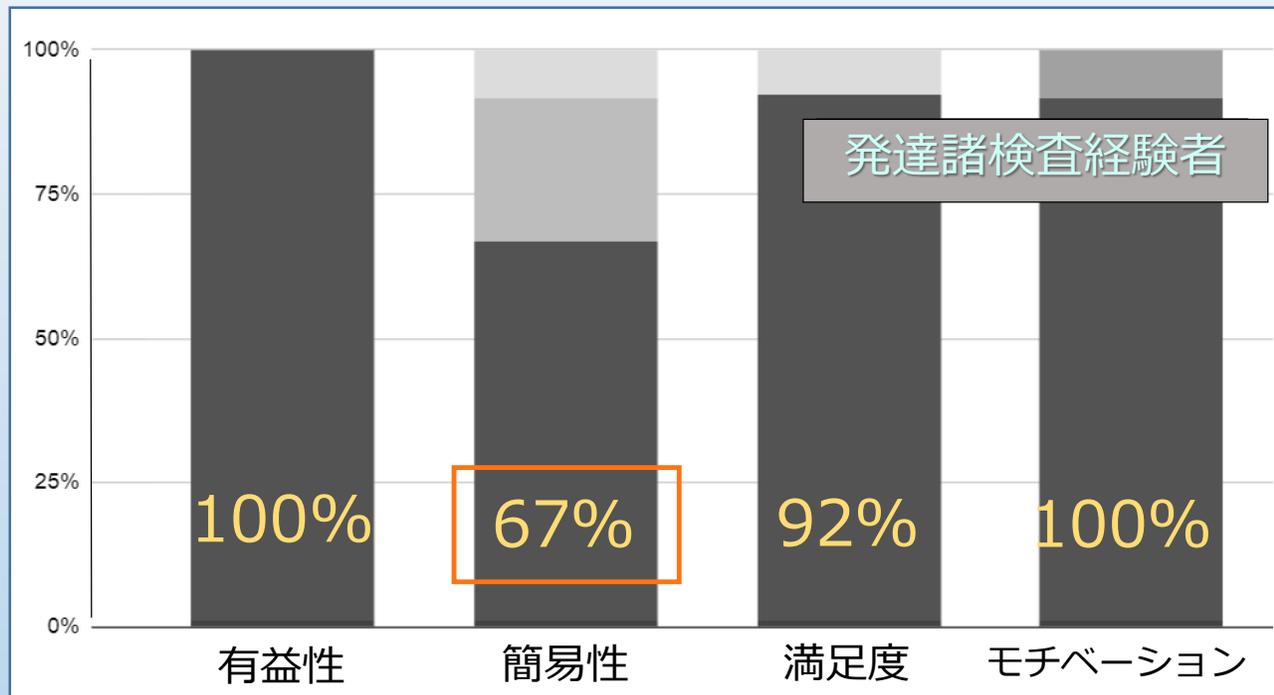
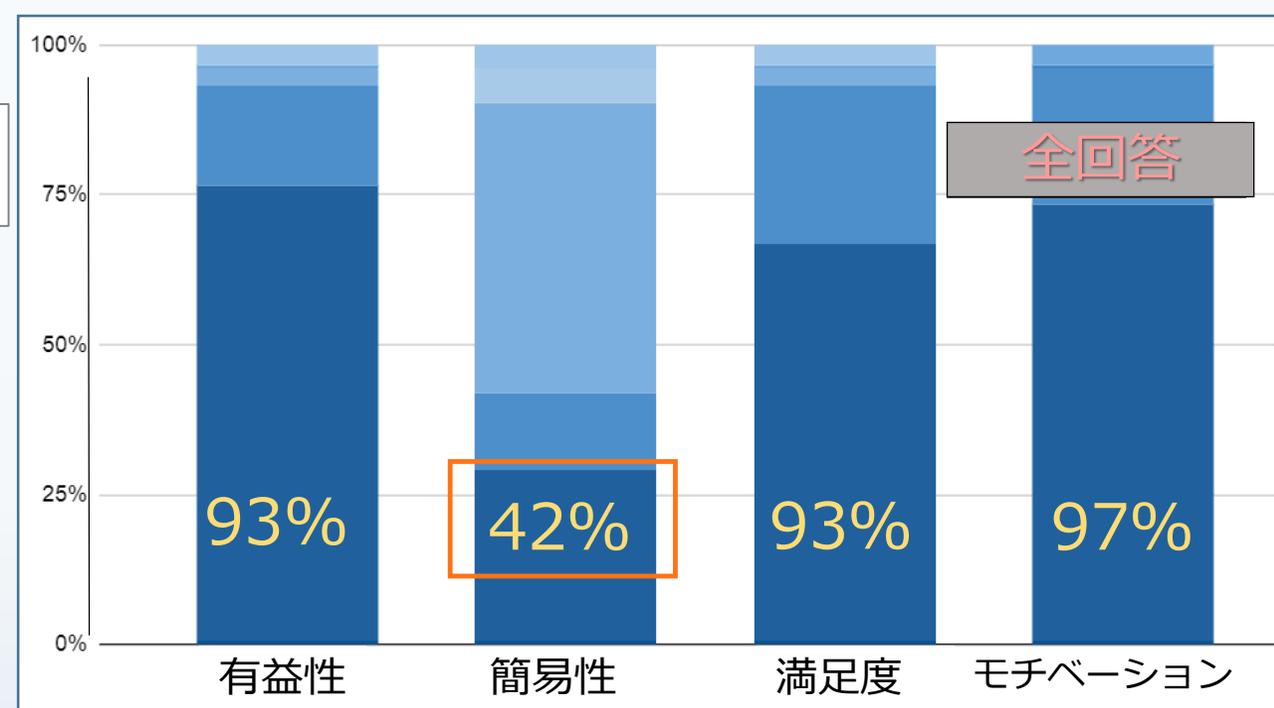
(コーディネーター経験)

経験なし：“**分からなかった実態が
見えて記述量が増えた**”

経験あり：“**実態—目標—支援方法の
関連が明確で書きやすい**”

実態把握の広がりによる変化

「よくあてはまる」「少しあてはまる」合計



自由記述・聞き取り結果

ポジティブ評価に影響したと思われる意見	ネガティブ評価に影響したと思われる意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新任でも実態把握ができる ・ 子どもの実態が“見える化”され、共通理解に役立つ ・ 合理的配慮等のアイディアリストがあるのが良い ・ 難しい配慮を要する子どもの長所も明確になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態把握に際して新たな視点で子どもを観察する必要があった ・ Windows Excel の操作に慣れていなかった <p>→ 実施に関する丁寧な説明が重要</p>

A² [支援のための発達アセスメント]
 発達の観点と、環境との相互作用

簡便性の評価の差

→ 他検査・他様式との比較による検討ができたことが評価に影響

簡便性 評価	発達諸検査実施経験あり	発達諸検査実施経験なし
よくあてはまる・少しあてはまる	78%	60%

指導者にとって、有用性の高いアセスメント&支援アイデアの付与したツールとして、良好なユーザビリティ評価が得られた

[簡便性] の向上について

- ・ ツール全体の利便性の改善
- ・ わかりやすい丁寧な情報発信

【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

Assessment
A²
Accommodation
『個別の教育支援計画』ツール Ver. 1.2
新任からできる実態把握 ぜひご利用ください

支援計画の作成で、目標設定や評価に悩んでいませんか？「A² 個別の教育支援計画」は現場の先生方をお助けする便利ツールです。実態把握（学習指導要領に対応した発達アセスメント）から合理的配慮を導き出すと共に、子どもの経年変化を記録することができます。

① 支援のための「発達アセスメントツール」としての活用

発達段階を選び、クリックするだけ！

学習指導要領の段階分けにも活用可能

「得意」と「課題」をその場で視覚化！

② 「合理的配慮のアイデアリスト」を参考資料として収録

実態把握リーダーや子どもの課題に応じて、適切な配慮をらくらく検索！

※ 様式は、幼保・小・中高に対応しています。

- ③ 「校内/他機関連携」を強化
- ④ 「実態～目標～支援～評価」の関連性を深化
- ⑤ 3～18歳までの「経年変化」を把握
- ⑥ 「養育・情動面の支援ニーズ」に対応

